

第763号 ヤスクニ通信 2018年8月12日  
日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会

〈祈りのために〉

「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」  
(ローマの信徒への手紙 12章1節b)

パウロは、「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしてお自分を变えていただき、何が神の御心であるか…わきまえるようになりなさい」(2節)と勧めます。この世の型に合せないで、自分の行動に神の知恵と意志を優先することを命じるのです。自分に従順であることは滅びの病いであるために、神の意志に生きること、そこに真の癒しがあるからです。

わたしたちは教会の現状やこの国の在り方を見て一喜一憂しないで、目の前に大きな壁が立ちただけ、闇の先に幾重にも闇が重なって将来の希望が見えなくても、神の約束が約束のままに実現することを信じるのです。この世の偶像的権力を恐れて、神の真実に生きることにとじろがず、たとえ少数者であってもキリストに倣って闘い、闇の世の権力から踏み潰されても、そのつど繰り返し立ち上がって、新しく神の武具をもって闘うのです。

わたしたちの歩む道は、先達によって固められた道です。彼らはキリストを告白して恥ずかしめを受けました。そうしながらも、神は彼らの唇に御言葉をゆだね、彼らの賛美と祈りの中に臨在されました。わたしたちは、彼らの踏み固めた大道を歩むのです。

わたしたちは戦前の韓国教会から学ぶべきです。当時の日本基督教会は、国家総動員体制の中であって、教会の体制を維持するために「天皇とキリスト」の両者を頭にして、信仰告白をあいまいにしました。日本基督教会議長富田満は「神社参拝は日本の習俗的儀礼であって、罪ある行為ではない」と、韓国教会に勧めたのです。それに対して少数の朱基徹(チュ・キ Chol) 牧師・伝道師・長老たちは「それはキリストを裏切り、キリストの花嫁の貞節を捨てることだ」と言明して、天照大神の拝礼を拒否したのです。教会を護ることよりも信仰告白に命を捨てて生きたのです。これが、使徒的伝承の継承であり宗教改革の信仰です。

この「暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊」(エフェソ6:12)に覆われている中に、神が生きて働いておられます。わたしたちは人類と世界と歴史の王である支配者「キリストと共同の相続人」(ローマ8:17)であるために、腰を据えてこの地上で歩むのです。「死者に命を与え、存在していないものと呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ」(ローマ4:17)、息子イサクを犠牲にしようとして「希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ」(ローマ4:18)た「信仰の父」に、わたしたちは倣うのです。

(祈り)

神よ、わたしたちから恐れを取り除いてください。偶像を神として人々を洗脳させ、私利私欲に凝り固まって弱者を踏みにじり、人々の心の自由を奪い取る巨大な権力を恐れる恐れです。むしろ、あなたの権威を畏れる者にしてください。どの民族においてもどの歴史においても、普遍的な正義と公平をもって統治しておられるあなたの権威です。川越弘(沖縄伝道所牧師)

## <ヤスクニ問題とわたし>

中家 盾（大阪姫松教会牧師）

私は、幼い時代をヒロシマで過ごしました。8月6日が巡ってくるたびに全校生徒が学校に登校し、語り部の方や映画を通して戦争の悲惨さを伝えて貰ったように記憶しています。その後、「近所に原爆が落ちた！」という夢を2回も見たくらいですから、よほどの衝撃だったのでしょう。

ただし、戦争の悲惨さという被害者の側面だけでなく、戦争に至るまでの間、そして、今日に至るまでの間、アジアの方々に対して、どれほどの加害を続けてきたのかということについては、思い至ることがないまま牧師になってしまいました。

その私が、天皇制のことについて考えようになったのは、大会の人権委員に選出されるようになってからのことです。外国人の人権問題、アイヌの人権問題、部落差別問題など、一つ一つの問題に関わって行く中で、その根底に天皇制の問題があることが見えてきました。

「一人の人が特別な地位と役割を持ち、神格化される。そこでは、真の命の造り主であり、治め主である神はどこかへ行ってしまうこととなる。このような歪んだ基準・ルールの中にあっては、人は真の平安を得ることができない。また、誰かが高められれば高められるほど、誰かが不当に低められることとなり、このピラミッド型の支配構造を打ち破ることは容易なことではなくなる」。

一人の在日コリアンの牧師と出会い、親しくなるにつれて、「天皇制の問題は過去の過ちであって謝罪と賠償をすればそれでおしまい」といったものではなく、今なお取り組み、戦っていかねばならない問題であることが切実なものとなっていきました。差別や偏見、ヘイトクライム、管理はいまだに続いているのであり、彼らは叫んでいるのです。

10年以上にわたって人権委員の務めを与えられる中で、「なぜヤスクニ問題、人権問題は、教会の中に広がっていかないのだろうか？」とよく考えさせられました。原発や自衛隊のこと一つとっても、教会内には様々な立場の人たちがいます。「多数派は自分たちのことを安全地帯に置くばかりで、少数派が抱える痛みを気づこうとしない」と声高に批判されることに反発を覚えたくなる人たちもいることでしょう。どんなに正義や正論を振りかざそうとも、教会が、そして自分自身が、本当に他者の痛みを気づき、共に歩む者となっていないのであれば、その軽薄さは見透かされるだけです。

今、対話する必要を痛感しています。天皇制が広く浸透した日本社会全体を、ただ敵対視し・批判するのではなく、もっとよく相手を知り、キリストの十字架と復活を携え、仕えていく。ユダヤ人大量虐殺の危機の只中にあった聖書の民が「敵をなくして安らぎを得た日として…この…日を…贈り物を交換し、貧しい人に施しをすることとした」（エステル 9：22）といてプリムの日を設けた。その意味をもっとよく知りたいと思います。

歴史はもっとも複雑多様な諸要因がからんで動いていくものなので、単純な図式や類型、何かの原理や法則でわかったつもりにならないほうがよい。同時にまた、「時が満ちた」と言うべき決定的な転換点が歴史には存在するのもしかたではないだろうか。

1945年8月15日の敗戦の日がそうであろう。もちろん、それですべてがすぐ変わったというわけではないが、方向性が根本的に転換されたことにはちがいない。

この半年間の東アジアの状況は、めまぐるしく大きく変わった。朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の金正恩（キム・ジョンウン）委員長が、韓国で開催予定の平昌オリンピックに参加すると年頭に表明してからである。その後、南北首脳会談、さらに米朝首脳会談と進展したのは周知のとおりで、今もそれが順調に進むかどうか期待と緊張のさなかにある。

しかして、その起点はどこにあるのかといえ、昨年末の韓国政府の日韓「慰安婦合意」についての表明にあったのではないか。南北の水面下での動きはいざ知らず、「完全かつ不可逆的解決」とうそぶく日本政府に対して、合意を破棄はしないが交渉経過に瑕疵があり不十分であるゆえ日本の誠実な対応を求める、と公式に発表した。日本政府の不誠実さは、被害者に直接お詫びするつもりは「毛頭ない」と断じた安倍首相の国会答弁に如実に現れていた。このような日本政府に韓国政府が思慮深く毅然とした態度を表明したことが、決定的な転換点となったと考える。

というのは、ろうそくデモという市民の直接的かつ平和的な行動によって朴政権が倒れ、文在寅（ムン・ジェイン）政権になってから、北朝鮮側はまともなコメントは発してこなかったからである。つまり、北朝鮮側は文政権がどのような対日政策を打ち出すのか、とくに過去の日帝植民地支配と侵略戦争に関して、どのような態度を取るのかを注視していたと見ることができる。そこで、文政権が日本に対して過去の責任を問う主体的な姿勢を取ったこと、またアメリカに対しても独立的な対応をしたことが決め手になったといえよう。

すなわち、日本の過去の植民地支配と戦争責任の清算が不十分なままであるが、それが試金石とされたのである。日韓条約ですべて解決済みと日本政府は言うが、新たな問題が生じた場合に両国は誠実に協議に応じることの一句が条約自体にあり、また個人の被害賠償請求権まで消滅したわけではない。

東アジア最大の不安定要因は、日本政府が過去の責任を率直に認め、真摯な謝罪と補償をしてこなかった点にある。平和への歴史の転換点は、日本が過去の罪責を認めるか否かにある。ここに、戦争犠牲者を「英霊」としてまつり、植民地支配・戦争と死者の実態から目をそらさせる靖国神社の問題性が深くからんでいる。主イエスは、「天国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と宣教された。悔い改めない信仰はありえない。悔い改めこそ歴史と人生の転換点なのである。（こが・きよたか；当委員会委員長、北海道中会宣教教師）

### ★第 68 回大会の「靖国神社問題全国協議会」のお知らせ

日時 2018年10月16日（火）午後6時30分～8時30分  
会場 日本キリスト教会 札幌琴似教会  
講師 宮庄哲夫（同志社大学教授・吉田教会長老）  
テーマ 「靖国の人間学一人を真に人とするために」

## <ヤスクニ関連ニュース>

## \*は報告者（古賀）のコメント

### ○ 安保法の新任務、陸自が初の訓練

陸上自衛隊は23日、モンゴルで行われている国連平和維持活動（PKO）の国際共同訓練「カーンクエスト18」を報道陣に公開した。陸自は3年前から部隊参加。今回は安全保障関連法で可能となった新たな任務「安全確保業務」の一部を初めて取り込み、他国の軍隊と国連関連の施設警備などの要領を訓練した。（朝日6・24）

### ○ 韓国でまた「旭日旗」やり玉に、「陸自が掲げてパリ市内行進」と問題視・・・

陸自の部隊は14日のフランス革命を記念する毎年恒例の軍事パレードに参加。パリのシャンゼリゼ通りを制服姿で日の丸と旭日旗を手にシンガポール軍と共に行軍した。・・・中央日報（\*韓国紙）は「ナチス・ドイツの象徴であるハーケンクロイツ模様の使用は厳格に禁じられているが、同じ意味を持つ日本の旭日旗を国家的行事に堂々と掲げて行進することを許した点は、日帝強占期の被害国の事情は考慮していないと解釈される余地がある」と論じた。国民日報（\*韓国紙）も「旭日旗は第2次世界大戦で使用された戦犯旗で・・・このような旭日旗をフランス革命の記念日に持ち込むのは、国民の自由と個人の平等な権利を確立し、今日の民主主義の土台を作ったフランス革命の趣旨と相いれない」と主張した。（Record China、7・21）

\*西日本災害がなければ安倍首相も行く予定だったが、侵略戦争の加害の歴史を認めようとしない首相と安保関連法とで増長する陸自との組み合わせには恐怖を覚える。

### ○ 翁長知事、辺野古埋め立て承認を撤回へ

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画を巡り、沖縄県の翁長雄志（おなが・たけし）知事は、前知事による辺野古沿岸部の埋め立て承認を撤回する手続きに入る方針を固めた。撤回には、事業主体の防衛省沖縄防衛局から弁明を聞く「聴聞」が必要で、近く防衛局に通知する。政府が進める移設工事が、承認時に付けた留意事項に違反していると判断。8月17日に予定されている土砂投入前の撤回に踏み切る。・・・県は、埋め立て予定地域の辺野古沿岸部東側で当初想定されていなかった軟弱な地盤が存在している可能性が高いのに、防衛局が県との協議に応じないこと、希少なサンゴ類の移植などの環境保全策が不十分なまま護岸工事を続けていることなどが留意事項違反にあたりと判断した。（毎日、7・19）\*7月27日、翁長知事は記者会見で公式発表した。

### ○ 4万4800柱の冥福祈る 石川県護国神社で万灯みたままつり

戦没者を追悼する「万灯みたままつり」は14日、金沢市の石川護国神社で始まり、戦没者の遺族らがあんどんのほのかな光に囲まれた境内で4万4800余柱の冥福を祈った。戦没者や遺族の名前を記したあんどんのほか、風景や動植物などを描いたあんどん計1600個が飾られた。・・・（北国、7・15）

\*無謀な戦争に駆り出された人々の実態を直視することこそ、戦死者への誠実な態度なのではないか。「日本軍兵士」（吉田裕著）を読んでつくづくと思う。

### （編集後記）

豪雨災害、猛暑お見舞い申し上げます。どこにも安全な場所などないのだと痛感/人と人との対話と理解、和解と信頼が本当の安全保障。ドイツの元大統領風に言えば、過去を悔い改めない者は現在に不誠実で、未来には無責任である/ヤスクニ問題も結論を高齢者が押し付けるのではなく、対話から始めたい。（K生）

763号ヤスクニ通信 2018年8月12日  
発行 日本キリスト教会  
靖国神社問題特別委員会  
発行人 古賀清敬 編集 衆広国  
発行 衆広国（大和教会）  
〒242-0021 神奈川県大和市中央  
7-1-22 TEL&FAX 046-261-3957